

第三百三十六話 最後に！

当メモランダムを終えるに当たって「先の大戦とは何だったのか」について考えてみたい。意義、性格、戦争犯罪、戦争指導、日本の戦略、日本人の正確や弱点或いは美点、国際関係に関する認識・対応、人材の育て方、等々色々な観点から考えられる。当メモランダムを読んで頂けた方には、百人百様の答えがあろう。それだけのヒントが、本メモランダムには有った筈であると自負している。

- ◎「無謀な戦争であった？国力を無視した冒険的・投機的な戦争だった。」のか
- ◎「正義の戦いであり、アジア諸民族の解放のための戦いだった。」のか
- ◎「政治化した陸軍が海軍や国内の国際協調派を脅迫して起こした戦争だった。」のか
- ◎「大局判断可能な真の国家的リーダーが不在であったが故の不幸な戦争だった。」のか
- ◎「日本もうまく戦えば戦争の帰趨は異なっていた可能性もあった戦争だった。」のか
- ◎「国際的なセンスなき日本が米英独に良いようにしてやられた戦争だった。」のか
- ◎「日本は残虐非道な国家（軍隊）で、その本性が現れた戦争だった。」のか
- ◎「国家にとっての最大の肝は何だったのかを明確していない戦争だった。」のか
- ◎「日本には蒋介石のような強かな指導者が存在しない状況下での戦争であった。」のか
- ◎「日本のみが一方向的に断罪されて然るべき戦争だったの。」のか
- ◎危機時の国家意思決定に当たって、強いリーダー或いは集団指導何れがベターかが問われた戦いであった。」のか
- ◎「陸軍は悪で、東條英機はヒットラーだった。彼等が起こした戦争だった。」のか
各種各様の視点がある筈だ。

最後に一言

- ① 日本の地政学的地位と国家戦略の方向性
日本は言うまでもなく、四面環海、大陸辺縁国家、資源小国である。このような国家が繁栄を求めるとすれば、安全保障上、資源確保上大陸に活路を求めるか或いは、海洋の利を活用してより広い世界に羽ばたくか、はたまた自らの生存圏に逼塞するかであろう。このような運命・宿命にある日本の明治以降大東亜戦争までの間の国家戦略を眺めると興味深い。私見では明らかに海洋国家足り得てこそ日本の安全と繁栄が保障される。
- ② 日清・日露戦争で得た権益のとらえ方
両戦争で十万の英霊と二十億の国帑を費やして得た満州等の権益に最後の最後まで拘ったが故に二正面作戦を強いられ、日米避戦も叶わなかった。
何が重要なのかのぎりぎりの判断が日本は下手なのだ。
- ③ 日本は各種判断において二者択一、1かゼロでなければ納得しない性向があるようだ。
一でもゼロでもない解が存在すること気付くべきではないのか？
- ④ 戦後長らく自信を喪っていた日本人も近年それを取り戻しつつあるのではと期待をもって眺めている。それを確かなものにする政治のリーダーシップが求められる。
- ⑤ 我々は、益なき単純な二元論から脱却しなければならない。

長いメモランダムに関心を持ち、読んで頂き感謝します。

完